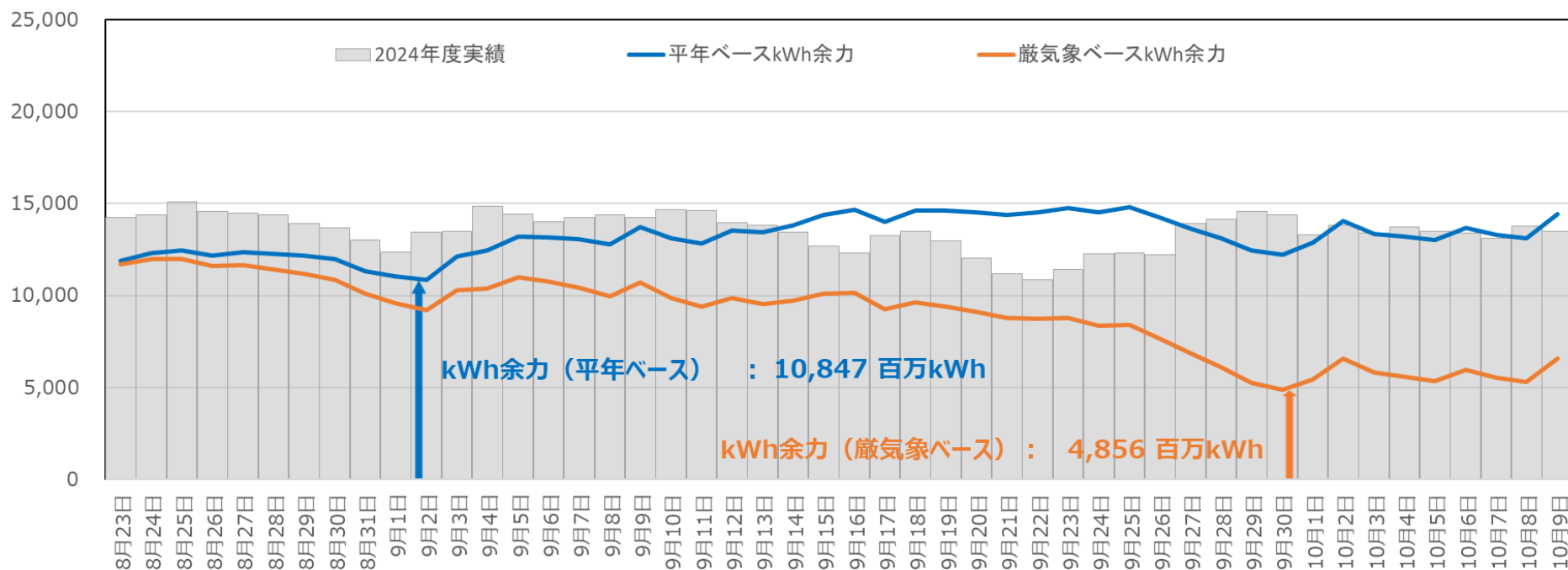


kWhモニタリング（対象期間:8/23～10/9）の結果

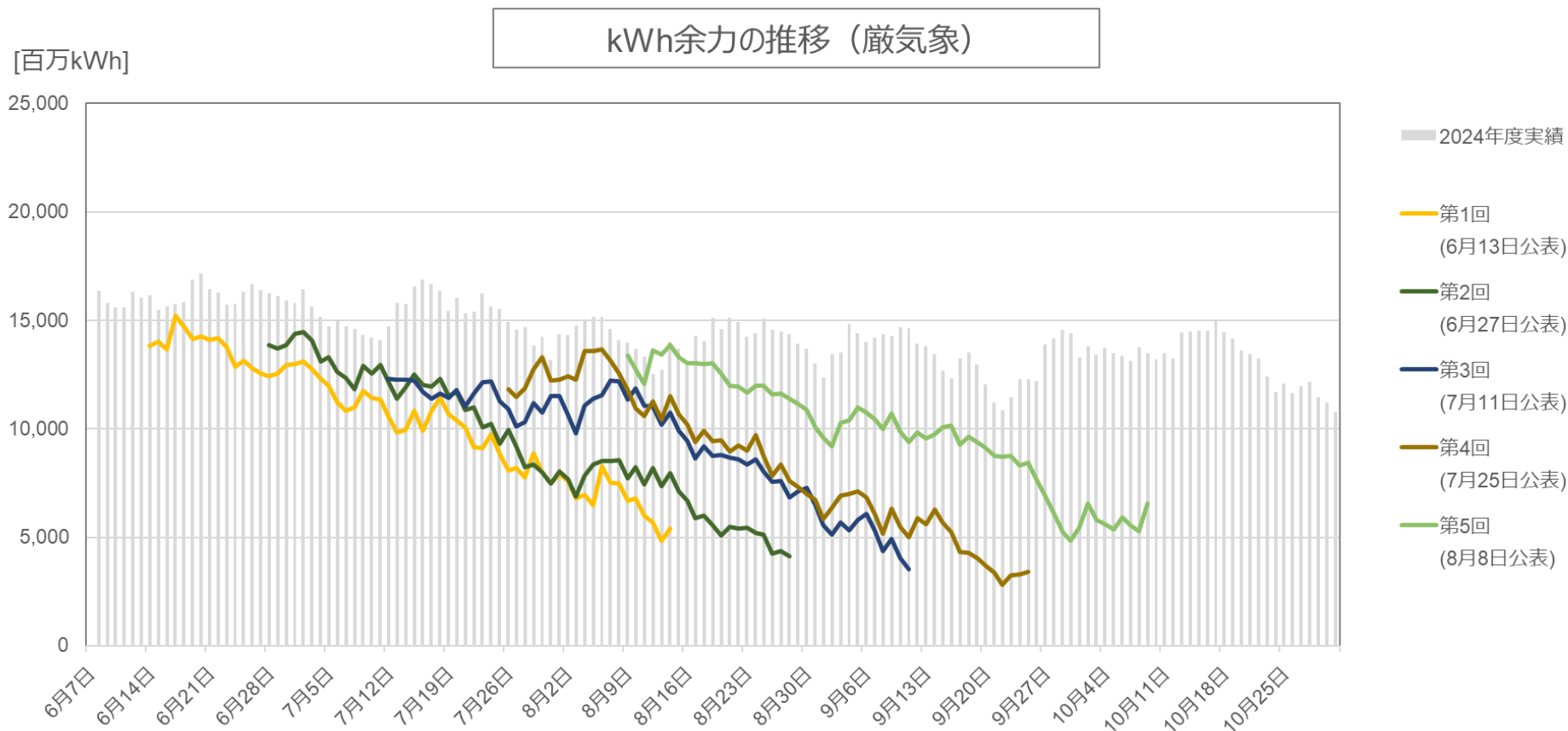
- 今後、平年並で需要が推移すると、kWh余力は9月2日に最小となる見込み。その値は **10,847百万kWh** であり、これは、対象期間の平均電力消費量の**約5日分**に相当。
- 厳気象ベースで需要が推移すると、kWh余力は、9月30日に**4,856百万kWh**となる見込み。これは、対象期間の平均電力消費量の**約2日分**に相当。
- 前回から傾向に大きな変化はなく、現時点で燃料在庫の観点からはひっ迫の恐れはないが、厳気象ベースでは在庫レベルが低めとなる可能性もあることから、今後の需要の増加や原発・石炭発電等のベースロード電源の計画外停止などの動向を注視していく。

[百万kWh]



kWhモニタリングの結果（これまでの結果との比較）

- 前回（第4回）のkWh余力（厳気象ベース）と比較すると、一部事業者の燃料調達等の影響により、kWh余力は増加。



注：上記kWWh余力の推移のうち、始めの2週間は気象予報を基にした需要を用いて算定したものであり、厳気象を想定した推移ではない